

← アメリカの高校、マークで使用

げん ばく 原爆のきのこ雲 なぜ誇りに ほこ

アメリカの新聞にのった記事を見せる古賀野々華さん＝7月、福岡県大牟田市



校舎に描かれたきのこ雲のマークの前で写真におさまる古賀野々華さん(右)＝アメリカ・リッチランド

アメリカとの戦争で広島と長崎に原爆が投下されて発生した巨大な「きのこ雲」。福岡県の高校3年生、古賀野々華さん(18)は留学したアメリカの学校のマークがきのこ雲と知り、おどろきました。生徒たちはマークを誇りにしています。帰国前に勇気をふりしぼって意見のちがいを動画で発信、世界中から反響がありました。

古賀さんは6月まで1年近く、アメリカ西部リッチランドの高校に留学。マークを見て「日本ではありえない」と思いましたが、最初は深く考えずにマークが入った服を着ていたそうです。

古賀さんは「他の人たちが意見を尊重する文化が学校にあったから挑戦できた。日本人の思いを知り、考えてくれるきっかけになればうれしい」と話しています。

「日本人の思い知って」動画で発信



りゅう がく 留学先でショック、福岡の女子高生

トニウムを生産して発展した町だったのです。「自分がはるかしくて、くやしくて泣いた」と古賀さん。「亡くなった日本の市民に考えをめぐらせている人はいない」と感じて、学校でつくる動画に出演しました。

動画のインタビューで生徒たちは口々に「マークを誇りに思う」と話します。古賀さんは英語で「雲の下にいたのは兵士ではない市民でした。罪のない人たちが殺すことに誇りを持ってもいいのですか」と問いかけ「自分にとってきのこ雲は、犠牲に